

平成30年12月14日

智頭町議会議長 谷口 雅人 様

輝くまちづくり調査特別委員会
委員長 酒本 敏興

委員会調査報告書

本委員会の調査事件について視察調査を実施したので、委員会規則第77条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1. 期 日
平成30年11月7日（水）～9日（金）、3日間
2. 調査委員
委員全員（12名）
3. 調査目的
本町のまちづくりを推進するため、先進事例の事務事業の調査を行う。
4. 調査地
 - (1) 東京都千代田区永田町 「衆議院・参議院議員会館」
 - (2) 埼玉県坂戸市 「東洋ライス サイタマ工場」
 - (3) 神奈川県三浦郡葉山町 「葉山町議会」
5. 調査内容
 - (1) 地元選出国會議員へ要望書提出
 - ・地方交付税の総額確保
 - ・過疎法の期限延長
 - ・平成30年7月豪雨災害の早期復旧
 - (2) 金芽米について
 - (3) 議会改革の取り組みについて

6. 調査概要及び所感

(2) 東洋ライス サイタマ工場

「米の消費量が年々減少する中、”おいしさ”と”健康”をウリに爆発的にヒットしている新しいコメがある。」平成29年6月に全国版の情報番組で紹介された「金芽米（きんめまい）」東洋ライスセンター関東工場を見学した。

東洋ライスは昭和36年に、日本の近代精米機のきっかけとなるトーヨー撰穀機を開発し、それを機に「株式会社東洋精米機製作所」として設立された。現在国内4工場でプラント事業、精米事業を行っている。

精米機製造販売を軸に、無洗米による環境事業、金芽米、金芽米ロウカット玄米、BG無洗米委託製造販売事業など、幅広く事業展開している米穀トップメーカーである。

平成3年には米穀事業に進出し、環境にやさしい研がずに炊ける「BG無洗米」を日本で初めて開発。数々の賞を受賞し、特殊な精米方法を開発し、高栄養・良食味のコメ「金芽米」を発表。

飲食店では、「近畿大学水産研究所」「タニタ食堂」など「白米よりおいしい」だけでなく低カロリーという健康面からも広く使用されている。

この金芽米の最新の設備工場を見学（玄米受け入れ～選別～玄米特殊精米～無洗米～金芽米～パック詰め～梱包～出荷）し、企業説明、商品説明を受けての質疑応答で、近代化された精米プラントに衛生管理、品質管理、トレーサビリティ（生産履歴）の徹底と企業理念の指し示す工場見学となった。

「日本のコメは安すぎる。もっと評価され、高く売買されるようになれば農家の意欲も上がる。」と雑賀社長の抱く思いで、全国のJAはもとより、全国のコメ農家とタッグを組み新たな取り組みが始まっている。

近年では、鳥取いなば農協や鳥取県若桜町など、過疎化が進みコメ農家の数が激減し、それに伴い生産量も減少している地域だが、美しい自然、水に恵まれた土地で生産されたコメを、オーガニック（有機農産物）志向の強い都市部・海外での販売につなげ、新たな金芽米を作り付加価値を付けて販売、農業所得の向上に繋がっていると感じた。

本町の農業も、担い手の高齢化は年々進んでおり、新たな担い手が育つ環境づくりを進めていく上で、先進的な稲作事業は有効な手段となる。本町の農業振興を一步ずつ進めていく上での施策作成に資する視察であった。

(3) 葉山町議会

“自治の担い手の再生” “性別よりも大事な資質と熱意” 男性議員が少数派となった日本唯一の地方議会と紹介された先進地を訪問した。

葉山町は、三浦半島の西北部に位置し、面積約17平方キロメートル、人口約3万2千人で、保養と観光の町として発展している。

葉山町議会は、定数14人（現在欠員1人）で、男性6人、女性7人と女性比率は全国一となっているほか、議員報酬は月額40万円と全国の町村議会の中で最も高額であり、政務活動費が年間24万円（月2万円）支給されている。

ア) 女性議員の比率が高い要因について

「よく聞かれるが、分からない。もう当たり前になっており、特に意識していない」とのことであったが、経緯等としては、以下のような概要であった。

東京や横浜のベッドタウンとして昭和35年以降に宅地造成が進み、若いサラリーマン家庭の流入が増え、夫が町外で働き、妻は専業主婦というのが典型的な家族の姿だった。女性議員の誕生は、主婦たちの市民運動がきっかけであり、全国的に盛んであった合成洗剤追放運動で、神奈川県では女性が主体となって地域政党をつくり議員を出すようになった。こうした流れで、葉山町で昭和60年に初めて女性議員が当選した。

以降、改選の都度に女性議員の数が増え、平成23年の改選時から現在の7人になっており、これまでに正副議長が共に女性だったことが3度ある。

定例会ではほぼ毎回、女性の全議員が一般質問に登壇している。

イ) 議員報酬について

昭和59年には22万6千円であったが、その後ほぼ毎年増額し、平成6年から現在の40万円となっている。葉山町は比較的物価が高いことや、市議会と同様の活動をしているとの自負があり、決して高額だという意識はないとのことであった。

なお、平成23年と24年に、議員報酬の削減を求める陳情書が提出されたことを契機に、平成25年と26年に議員報酬のあり方について調査・検討が行われ、議員報酬は議員活動という役務の対価と捉え、各議員の活動日数（定例会等の議会活動以外に、個々の議員が政策立案に要した研究研修、町主催行事への出席、住民から受ける各種相談等の日数）を検証し、現在の報酬額が適切だとの裏付けをされている。

ウ) 政務活動費について

平成16年度から交付され、年額を一括交付し、収支報告書と領収書を毎年4月末日までに提出し、町のホームページで公開されている。主な支出は、広報費、研究研修費とそれに伴う調査旅費、資料購入費となっている。

なお、平成29年度については、2議員が、支出額がなく全額を返還している。

エ) 議員定数について

昭和58年は24人であったが、以降4回削減し、平成23年の改選時から現在の14人となっている。人口は平成22年まで微増傾向にあるが、以降は微減傾向にある。

オ) その他参考事項

- ・平成29年9月議会からタブレット端末を議会と執行部が導入している。
- ・当初予算審議と決算審議の際には、一般質問以外に予算・決算総括質問が行われている。導入開始時期は少なくとも平成19年以前とのことである。

カ) 所感

一般質問は毎回、ほぼ全員が制限時間（質疑応答60分以内）まで活用し、議案や陳情、意見書に対しても議員個々が是々非々の姿勢で臨み、執行部提案の否決や修正のケースも少なくないと聞くなど、執行部と議会の間にあるべき緊張感が保たれている様子を伺い、激変した議会改革の成果を知ることとなった。

また、「本会議や委員会に付随する活動」や「町民との会議」についても、議会改革の領域に特筆されている。地域社会のニーズに、議会・議員もしっかりと応えなければならないと考えさせられた。

智頭町議会においては、今後、議会改革に関する調査特別委員会の設置を検討中であるため、今回の葉山町議会の取り組みを大いに参考にしたい。